

田中智也

県政レポート

政策特別号

まっすぐ

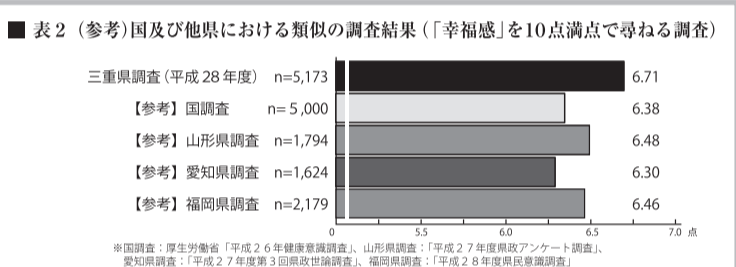
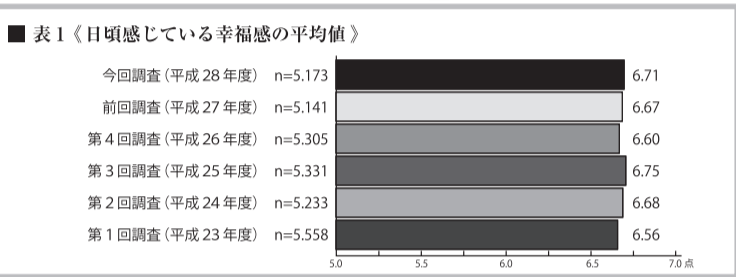


田中智也

発行人:田中智也 〒510-0839 四日市市青葉町800-177
TEL:059-353-5995 FAX:059-337-8211

電子メール:bottlenose@khaki.plala.or.jp
たくさんのご意見をお待ちしております!

皆さんのご意見を 県政に反映を!!



満足度は道半ば
県民意識調査は、現在の調査方法になつてから1回目は平成24年に実施され、平成29年調査で第6回目を数えます。直近の第6回調査報告によると、「幸福感」の調査では10点満点で6.71ポイントとなっております。表1のとおり、あまり

大きな変動はありません。全国的には表2のとおり、国や他府県と比較すると幸福感は高い結果となつていますが、「幸福実感日本一」を目指す三重県としてはまだまだ道半ばと言えるのではないのでしょうか。

その中で、政策分野毎に見た県民の皆さんの実感(満足度)はどうでしょうか。表3の「地域や社会の状況」についての実感調査をみると、「実感している層」が上回る分野に課題が隠れていると思えます。分野別にみると

「雇用労働分野では△42.4%(6)人権尊重と社会参画分野で△28.7%(1)防災分野で△20.5%(3)福祉分野で△15.1%(15)公共交通分野で△11.8%(7)教育分野で△10%の順に実感が悪くなつていきます。雇用分野では、過去調査と比べて改善傾向にはありますが、分野の中で一番満足度が低く、実質賃金の減少傾向や不安定雇用、長時間労働などの社会問題が背景にあると考えられます。(12)産業分野の△傾向とも相まって、政府が目標とするほどアベノミクス成果は表れていないように見えます。

県の政策の中で働き方改革を実効あるものとするよう進めるべき重要な課題です。人権尊重と社会参画分野では、個別課題を探る必要があり原因はつぶさには語れませんが、県政のあらゆる分野で「個人の尊重」をキーワードとして取り組むべき課題です。

防災分野も実感層が低い状況ですが、東日本大震災以降の防災政策の強化もあって、第一回調査と比較すれば20%程度改善が図られています。安全・安心に関わる引き続き重要な課題です。福祉分野でも実感していない層が15.1%も上回っています。地域別で詳細にみれば北勢地域で実感層が全体より低く、第一回調査よりも低下しています。子育て・介護にかかわる相談も多く、市町と連携して取り組まなければならない課題です。

公共交通分野でも、実感しない層が多く、特に過去3年間は低下傾向が続いています。詳細な分析が必要ですが、三重県は高齢化率が高く、過疎・人口減少問題も含まれるとコミュニケーションバス輸送網の整備などが課題となりつつあると考えられます。また、教育分野も改善傾向にはあるものの引き続き重要な課題と言えます。よき環境の整備が求められ、学校の先生の過重労働が問題になってお

雇用・参画・防災・福祉・交通・教育が六課題

三重県は平成28年に伊勢志摩サミットの開催、平成29年には全国菓子博の開催など、三重の情報発信にかかる大規模な事業・イベントを繰り広げてきました。また、平成33年には国体開催が予定されています。はなばなししい事業もさることながら、普通の地道な県民サービスが皆さんのご期待に応えられているのかを常に考えることが

重要ですが、三重県は毎年「県民意識調査」を実施していますが、その結果を参考に県民の皆さんが県政に何を求められているのかを探ってみました。田中智也とともに皆さんもぜひお考えください。また皆さんの意見もわたし田中智也にだけ聞かせてほしいと思います。

■表3 地域や社会の状況についての実感(一覧)

項目	実感している層		実感していない層	
	今回	前回差(第1回差)	今回	前回差(第1回差)
(1)災害の危機への備えが進んでいる	34.2%	(1.7)	54.7%	(-1.6)
(2)必要な医療サービスが利用できる	52.0%	(3.0)	37.6%	(-2.5)
(3)必要な福祉サービスが利用できる	31.5%	(1.7)	46.6%	(-0.4)
(4)犯罪や事故が少なく安全に暮らしている	65.4%	(5.2)	28.6%	(-4.4)
(5)身近な自然や環境が守られている	49.3%	(1.4)	41.7%	(-0.2)
(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などに問わず、誰もが社会に参画できている	26.8%	(1.0)	55.5%	(0.0)
(7)子どものためになる教育が行われている	34.4%	(0.9)	44.4%	(-0.6)
(8)結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている	45.7%	(2.4)	37.5%	(-2.0)
(9)スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている	41.8%	(0.5)	42.7%	(1.1)
(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい	73.5%	(0.4)	17.9%	(-1.8)
(11)三重県産の農林水産物を買いたい	83.8%	(-1.7)	9.1%	(1.1)
(12)県内の産業活動が活発である	35.4%	(1.5)	44.2%	(-0.9)
(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる	36.4%	(2.9)	46.1%	(-1.1)
(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている	21.0%	(2.5)	63.4%	(-2.1)
(15)道路や公共交通機関が整っている	40.4%	(-0.6)	52.2%	(0.8)

※「実感している層」の割合、「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
※「実感していない層」の割合、「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
※割合は、「わからない」や「不明(未回答など)」も母数に含めて算出

医療政策分野も懸念事項

調査結果からは見えない懸念事項があります。それは(2)医療政策分野です。調査結果では満足度は高くあらわされていますが、過去の各種調査では県民が重要とする割合の高い政策分野です。三重県では医師確保対策に努めてきましたが、まだまだ満足できないものがあります。高齢化率の高いまだだきめ細かな対策が必要で、高度専門医療体制も不足していると考えま





田中智也 の政策 語りたの!

6つの課題と1つの懸念

表面に記載の6つの課題「雇用」「参画」「防災」「福祉」「交通」「教育」と、懸念事項として挙げた「医療」について、私が思う現状と対策について述べたいと思います。

私がこれまでの議員活動の中で調査してわかったことや、県民の皆さんから、そして現場で働く人々からお聴かせいただいたことから考えることです。

雇用

改善傾向にあるものの満足感が最も低いという事は、「戦略産業雇用プロジェクト」等により県内全体で、平成28年度は284名の雇用創出につながっていることや、景気が緩やかに回復してきているものの、依然として県民の皆さんに実感が伴っていないという結果ではないでしょうか。

県内従業者の約9割が中小企業で雇用されていることを勘案すると、中小企業・小規模事業の振興を更に進めることが重要であると考えています。

また、若者の就業に際しても、早期の離職が多いことなどの課題があり、就労支援やU・Iターン就職の支援を重点的に取り組むとともに長時間労働の是正など真の働き方改革を進め良質な雇用を創造していくことも重要です。

本県でも人口減少が大きな課題ですが、少子化とも人口の流出が大きな要因となっており、これらへの対策にも資するものと考えています。

参画

県民の皆さんが性別や障がいの有無、文化的背景の違い等にかかわらず、自立した個人として尊重され、社会の様々な分野で平等に参画する機会が得られる三重県にしていくことがとても大切で、人権意識の高揚を図るための研修や講演会なども実施されていますが、私自身もまだ「個人の尊重」が認められるような状況にはなっていないと感じています。

また、近年は「イクメン」などの言葉が使われ、子育て世代の女性の社会参画を支援する機運もありません。

様々な政策を展開しても効果が表れにくい分野ではあります。故に根気強く取り組み続ける必要があると考えています。



防災

本県でも南海トラフ地震の発生確率が高まっていることを捉え、「三重県新地震・津波対策行動計画」などを策定するとともに「みえ防災・減災センター」の設立や、四日市に近々完成予定の北勢広域防災拠点をはじめとする拠点の整備等の対策を講じてきました。

近年では集中豪雨による土砂災害が頻発していることから「三重県新風水害対策行動計画」に掲げられた目標に沿って取り組みを進められて

います。また、河川に堆積する土砂も毎年大きな課題となっており、優先度を検討しながら計画的に対応していき、継続した取り組みが必要とされています。

これら自然災害へのハード面の備えには経費と時間が掛かることや、規模の災害が発生するおそれがあること、県民の皆さんの防災意識を常に高く持ち続けていただくことも必要であると考えています。

福祉

福祉サービスの高齢者や障がい者、児童等、様々な領域がありますが、どの領域の当事者も社会として支えていかなければならない方たちであると考えています。

本県でも人口減少が急速に進み、支える人が少なくなる中、一人暮らしや認知症の高齢者が増えてきており、県として元気な高齢者がこれらの人々の生活支援の担い手となっていたり、くような取組を進めています。

また現在、県議会として「障がい者差別解消条例」特別

委員会が設置されており、私も委員として議論に参画していますが、単に障がい者に対する差別をなくすことにとどまらず、社会において障壁を感じておられる方々の暮らしやすさをつくるべく、条例に定めるべきであると考えています。

子どもについては経済的に厳しい状況に置かれた子どもたちを、医療や教育などを適切に受けられるような環境を整備していくべきであると考え、子ども医療費の窓口無料化に向けて取り組んでいます。

交通

本県では公共交通が発達しているとは言い難い環境であることに加えて、人口減少等による利用者数の減少の影響もあり、交通事業者の経営が圧迫され、赤字路線を廃止せざるを得ないなど、今後ますます課題が大きくなることが予想されます。

これらに対応するために「まちづくり」は公共交通を軸として広域で暮らしやすさを考慮したものとしていくべきであると考えています。

また、道路に関しては産業政策を進めていくためにも更なる整備が必要であり、とりわけ北勢地域における慢性的な幹線道路の渋滞は経済的な損失にもつながっていること、渋滞を避ける車の通学路などの生活道路への流入によって子どもたちの安全も脅かされているのではないかと考えています。

北勢バイパスや新名神高速道路、東海環状自動車道などの整備促進に注力していくとともに、歩行者の安全対策も充実させていくべきであると考えています。

教育

グローバル化や情報化の進展、産業構造や雇用環境の変化等が子どもたちの生活に大きな影響を与えているとともに、教育格差と貧困の連鎖等の課題が大きくなっています。

その一方で、学校の先生の過重労働についても、深刻な問題となつています。

県では①「生き抜いていく力」の育成として、自らの無限の可能性を信じ、未来への希望を胸に、来るべき時代を生き抜き、夢と志を実現できるように、「自立」「共生」する力を育む。②「教育安心県」の実現として、経済的・社会的な事情にかかわらず、誰もが必要な「学び」を自由に選択できるような基本方針の下、取り組みを進めていきますが、このような状況だからこそ、私は義務教育年限全ての少人数教育を実施することなどにより、主体的に学び、他者と協力しながら行動できる子どもたちを育成していくべきと考えています。

医療

医師不足は医学部定員を少しづつ増やしてきており全国的には若干の改善がみられますが、三重県においては、人口あたりの医師数が全国平均より少なく、(都道府県順位36位)全国平均との差は診療所よりも病院の方が大きくなっています。

また、地域や診療科による偏りが大きく、病院では、伊賀、東紀州、北勢、伊勢志摩地域の順に少なく、麻酔科や小児科、病理診断に従事する医師が少ないのが現状です。

これらの医師がいないからという理由で遠くまで通院を要する方が多く、地域や診療科による偏りが大きく、病院では、伊賀、東紀州、北勢、伊勢志摩地域の順に少なく、麻酔科や小児科、病理診断に従事する医師が少ないのが現状です。

これらの医師がいないからという理由で遠くまで通院を要する方が多く、地域や診療科による偏りが大きく、病院では、伊賀、東紀州、北勢、伊勢志摩地域の順に少なく、麻酔科や小児科、病理診断に従事する医師が少ないのが現状です。



アンケートにご協力下さい!

今回の県政レポートでとりあげた6つの課題と1つの懸念事項に関して、皆さんの重要度と満足度をお聴かせ下さい。

また、それぞれの点で具体的な要望もいただければ幸いです。

今後の田中智也の活動に活かしてまいります。よろしくお願いいたします。

回答は別添の用紙にご記入いただきご返送ください。

また、同時に田中智也の活動をご支援いただける方をご紹介いただければ幸いです。

田中智也